

受付番号	2025-57		
許可番号	大歯医倫 第 111451 号		
研究課題名	歯科衛生士卒前教育における医療コミュニケーション能力の構造化評価		
研究責任者	島田 明子	申請者	山下 快子
研究終了日	2027 年 3 月 31 日		
所属	医療保健学部 口腔保健学科	所属	医療保健学研究科 (口腔科学専攻)
職名	教授	職名	修士課程 1 年生

申請の概要

歯科臨床において、患者との医療面接および適切な医療コミュニケーションは、診療の質と安全性を担保するだけでなく、治療に対する不安など患者の心理的負担の軽減にも影響を及ぼす。そのため、歯学教育においては、共用試験歯学生客観的臨床能力試験（歯学生 OSCE）を通じて、医療面接を含む臨床実践能力が体系的かつ標準化された方法で評価されている。

一方、2025 年 3 月に発表された歯科衛生士モデル・コア・カリキュラムにおいては、患者とのコミュニケーションのみならず、医師・歯科医師・看護職・介護職等の多職種との連携を支える医療コミュニケーション能力の重要性が明確に位置づけられている。今後の地域包括ケアシステムの深化や医科歯科連携の推進を背景に、日本における歯科衛生士には、医科と歯科をつなぐ専門職としての役割が一層求められることが予想される。したがって、歯科衛生士を目指す学生が卒前教育段階において、医療コミュニケーション学に基づく基本的知識および技能を体系的に学修することは極めて意義深い。しかしながら、歯科衛生士卒前教育においては、歯学部教育における OSCE のような、医療コミュニケーション能力を対象とした標準化された評価方法は未だ確立されていない。

本研究により、歯科衛生士卒前教育における医療コミュニケーション能力を、教育目的の範囲内で客観的かつ構造的に評価する枠組みが整備されれば、学修到達度の把握が可能となり、教育内容の改善および教育の質保証に資することが期待できる。

以上の背景より、本研究では歯科衛生士卒前教育における医療コミュニケーション能力の客観的かつ構造的評価のためのルーブリックの開発を目的とする。本研究により、歯科衛生士教育における医療コミュニケーション能力評価の基盤構築を図り、教育の質の保証および将来的な評価の標準化に資することを目指す。